THE KANSAI UNIVERSITY NEWS

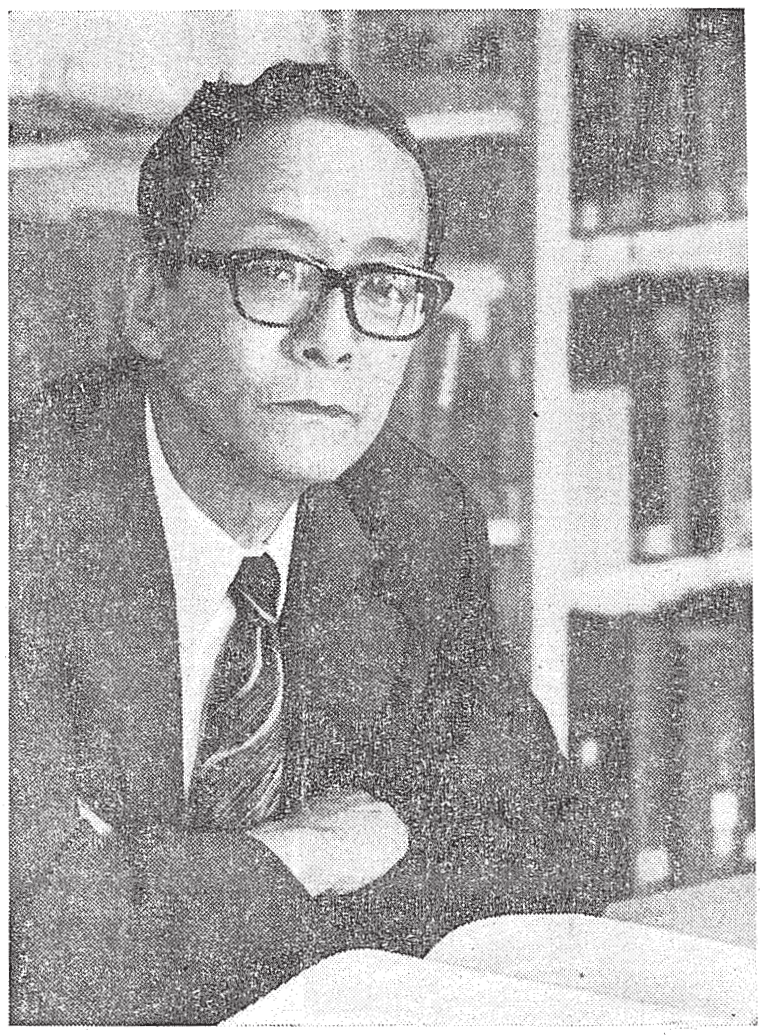
関西大学通信

第40号
広報委員会発行

大阪府吹田市山手町3丁目
関西大学広報委員会

新学長 明石法学部教授に決まる

広瀬捨三現学長の任期切れにともなう次期学長選挙は、六月末以来、いくつかの手続きを経た上で、九月九日、全教員による選挙会が行なわれ、明石三郎法学部教授が新学長として選出された。＝写真は明石教授



過半数を獲得 十月一日より就任

全教員により選出

暫定規程に基づき実施

次期学長選挙の実施は、まずその選挙方法である「学長選挙実施要綱」について、全学生の賛否を求めるアンケートの発送から始められた。アンケートは七月十六日に締切られたが、その集計結果は次のとおりであった。

発送総数　二四・一三三
期限内返信数　五、二八三
返信率　二一・九％

貸成　四、二六四（八〇・七％）
反対　九九二（一八・八％）
無効　二七（〇・五％）

この結果、反対者が全学生の半数を大きく下まわったことによって、「学長選挙実施要綱」は学生の賛同を得たことになり、これをもとに「学長選挙に関する暫定規程」が立案、制定された。

この暫定規程に基づいて、七月二十六日、各学部長が学長選挙管理委員となって学長選挙管理委員会（委員長、新保正樹工学部長）が構成された。

続いて、八月一日、教育職員、事務職員から選出された選考委員によって、学長候補選考委員会が開かれ、明石三郎（法学部教授）、広瀬捨三（文学部教授）、藤本是（文学部教授）の三教授が学長候補に選ばれ、同日公示された。

次いで、学長候補者に対する全学生の除斥投票が行なわれた。投票用紙は八月九日に発送され、八月二十五日（当日消印有効）に締切られたが、その集計結果は九月一日、次のように発表された。

明石三郎　一、二四四票（五・二％）
広瀬捨三　二、〇〇七票（八・三％）
藤本　是　一、五八一票（六・五％）

なお右の票数は除斥投票数であり、カッコ内は有資格者に対する除斥率である。この三名の学長候補者に対する除斥投票の結果は、いずれの候補者についても、「暫定規程」第七条第五項に定める規定数（全有資格者二四、一四一名の三分の一）に達せず、三名の学長候補者が確定し、公示された。

最終的に学長を選出する学長選挙会は、九月九日、全学の教育職員によって行なわれた。有権者は暫定規程第四条第二項第一号に定められた専任の教授、助教授、専任講師、助手および副手であったが、当日の投票総数は四二五票。開票の結果、有効四二四票、うち無効一票となり、明石三郎教授が二二五票と過半数を得て、次期学長に選出された。

選挙会後、直ちに教授会（六学部合同）が開催され、全員一致で明石教授を次期学長として理事会に推薦することが可決された。新学長は九月十日開催の理事会において承認され、十月一日より就任することとなった。

新学長の横顔

中　義勝

先生、短躯・痩身、その風貌すこぶる冴えない。麦藁帽でもかぶらせれば、村夫子然としてよく似あいだろう。弁舌また訥訥（とつとつ）として、お世辞にも雄弁だなといえない。趣味も、お見うけしたところ、都会的洗練性とは縁なく、田舎っぽく、土くさい。

こう並べたてると、のっけから新学長のイメージをブチ壊すようで恐縮だが、すくなくとも、タキシードがぴったり似あう威風堂々たる巨漢でないことだけはたしかである。ものに譬えれば、丁度、土間にころがしてあるじゃがいもといったところだろう。これを抽象的に表現すると、実直で義理堅く、いささかもケレン味がないということである。頭の回転も卒直に申し上げて、決して早い方ではなく、むしろジックリ型である。しかし、頭の切れる人は往々にして論理倒れになる弊がある。先生には、何というか、大局観と中庸の感覚がある。こうした長者の風格が、おのずから人に頼られる安心感を与えるのではなかろうか。

大局観と中庸の感覚

それはそれとして、この辺で、先生をめぐる忘れえぬ思い出を語ることにしよう。昭和四十四年、わが関大も全国的規模で起こった学園紛争の渦中に巻きこまれた。そのまっさいちゅう、法学部長の辞意が学部教授会によって認められたが、後任部長の引受け手がない。たしか、選挙を三度ほどやり、その都度当選者は決まったが、病気その他の理由で、とても激職には責任が負えないというわけである。これには、私もほとほと困却した。それというのは、当の私が辞意を認められていた学部長だったからである。三度目の正直ならぬ、四度目の正直で明石先生が当選された。今度も、先生は、医師の診断をまって諾否を決めたい旨申し出られ、その日は一応解散した。私は祈るような気持ちであった。というのは、先生にはかってルンゲの前歴があり、外遊中、ヴェネチアで胃潰瘍を再発し、早々に帰国されたのはほんの二、三年前だったからである。一方、このままで後任学部長の引受け手がなければ、大学よりも、まず法学部が崩壊するという危機感が私にはあった。幸いにも、医師の診断は現に病気だということではなかったが、しかし想像を絶する激職によく耐えうるかどうかは、先生ならずとも最も心配されるところであったろう。私は、勇を鼓して、法学部の屋台骨の建て直しを先生に懇願した。こうして、ようやく先生の諾意をとりつけたが、その夜の奥様からの延々四十分にもわたる長電話には何とお答えしたかまったく記憶がない。すべて先生の健康を憂慮されてのお話であり、これには私も骨身にこたえた。すぐにもお詫びとお願いに参上しようと思いながら、多事多難、ついに時を逸したまま今日にいたったが、紙上を借りて衷心お詫び申し上げたい。

正直いって、私は、先生の病歴をも省みず、真情を吐露して就任を懇願し、先生は真情を以てこれに応えて下さった。私ならずとも、これには感銘するであろう。私は、心中ひそかに、このことだけは忘れまいと誓った。先生の責任感あふれる決断が私に乗り移り感激を起させるものがあった。

このたび、先生は、学内の与望を担って学長職に就任されることになった。衷心、御苦労様と申し上げたい。病歴については、先生御自身、よく御自覚のはずである。在任中は、おそらくは研究活動もストップせざるをえないであろう。学長になってよいことなど一つもない。にもかかわらず、選挙の結果を御承引になったのは、心中深く期せられるところがあるものと思われる。月並みながら、御自愛のうえ精励されるよう、心からお祈り申し上げる。＝（法学部教授）

部落問題

最近の経過について

前田春典

部落問題は、従前より社会的にきわめて重要な問題であり、本学においても、本年四月「部落問題委員会」が学長の諮問機関として発足し、この問題に、国民的・社会的立場、あるいは教育的立場より、自らの問題としていかに取り組んでいくかについて、真剣に前向きに検討してまいりました。

しかしながら他方、本学内において、従来からも遺憾ながら、学舎内での落書をはじめ、あいついで九回の差別事件が発生しております。したがって、今後さらに一段と学生・教職員は大学の社会的使命としての部落問題解決という観点にもとづき、部落問題教育に関する深い認識と理解を学生諸君が身につけることを目的として、教職課程科目の通年四単位必修および一般教育科目の開設、ならびに研究室の設置の、来年四月実施を約束した次第です。

これにもとづき、学長は直ちにこの件について部落問題委員会に諮問し、同委員会の答申を得て、さらに教職課程運営委員会ならびに教職委員会に対して、具体的実施についての諮問をし、八月末にその答申を得ました。

ついては、これらの答申にもとづいて、直ちに学部長会議においてこの件を検討し、学科目については学則を改正して、四十九年度より実施することを目途として、現在、各学部教授会において検討しつつある状態であります。

今後さらに一層の深い認識と努力とでもって、部落問題を国民的課題として取り組んで行く所存であります。

（教学部長）

一体となって、人間の自由と平等にかかわる問題として取り組むために、六月末、千里山学舎において部落問題講演会が、大学主催のもとに三講師によって開かれました。

その席上において、広瀬学長得て、さらに教職課程運営委員

次目の号本

▼二面　学長選挙結果、新学長の横顔、部落問題の経過について、千里眼　▼二面　学生会館について学生諸君へ、キャンパス情報　▼三面　経政・研・東四学術研増改築工事始まる　▼四・五面「旅」特集＝旅の原点、旅の意義、旅の思い出・随想、山の秘境ルート、秘境マイコミ平　▼六・七面「夏休み特集＝全国各地で多彩な夏期合宿、故岩田先生追悼記　▼八面　三冊の本、随想、世界の大学と学生生活

千里眼

▼世界的なエネルギー危機が近づきつつある。産業革命以前の人類は専日地上に降り注ぐ太陽エネルギーのほんの一部を利用し、かろうじて生命を保ってきた。しかし、科学技術の進歩に従って、やがて人類は過去の太陽エネルギーの蓄積を利用するようになる。すなわち石油、石炭の利用である。▼地球上のエネルギー危機はあと三十年ほどで到来するといわれている。これを解決する手段の一つとして、太陽エネルギーの利用がある。地球に降り注ぐ太陽エネルギーは石炭換算で九十兆トンといわれ、全人類が現在使用しているエネルギーの実に十万倍である。▼この太陽エネルギー利用の成否の鍵は低コストで太陽光を電力に転換する技術開発にある。地表上の日光はエネルギー密度が低く、天候に左右され、晴天の日でも約1W/m^2にすぎない。そして夜間はもちろん利用できない。従って地球のまわりに静止衛星を打ち上げ、太陽電池群二組を対称的に設置しておけば天候に関係なく日光を電気に転換でき、また発生した電力はマイクロ波によって地上に送ることができる。太陽エネルギーは無尽蔵・無公害で、可動部分がないため、消耗もなく長時間補修なしに作動させうる。また地上装置の方も、到達したエネルギーのわずか一〇％が廃熱として失われるにすぎず、無公害を起す恐れもない。もっとも、この技術確立のためには多くの部門における研究が必要となろう。各種分野における科学技術開発が急がれる所似である。（T・U）

学生会館（誠之館）について学生諸君へ

先般来、学内で一部の学生諸君から
・学生会館の学生自身による自主管理権を与えよ。
・午後八時以降の学内立入禁止制限を撤廃せよ。
・総合学館を開放せよ。
のような要求をしているのが未だ散見、再三におたる大学の設置にもかかわらず、復帰や泊り込み等の不法行為をくり返している者もあります。

学生会館の使用については、これまでも、しばしば明らかにしてきたように「誠之館規程」および「誠之館使用についての暫定申し合せ」があります。これは大学と学生代表との間で相互長期間の良主的な協議を経えたうえで成立したものであり、大学が数年来の苦慮に苦労した経験のなかでもまり通してきたものは、この理由に基づくものであります。したがって、大学としては学生諸君の十分な活用の面からみても、また公的な意味からも、自主管理の原則は尊重されるべきであります。

上記の「申し合せ」の中で、
一、学内外を問わず暴力行為を行なうこと。
二、凶器（例えば角材、鉄パイプなど）、爆弾、ヘルメットなど武器携帯または、使用して、学内に立入ること。
三、学舎研究室その他施設などを破壊、占拠、封鎖すること。
四、威力を用いて退行、黙認及び面会など強要すること。
五、教室へ押しかけて、または手毛、集会、放送、シュプレヒコールなどの騒音により授業及び大学の正常な業務を妨害すること。及び学舎、建物でさ手を行なうこと。
六、立入禁止区域に立入ること。
七、当分の間、平日午後八時から翌朝八時まで（夜間閉鎖）、学内に立入ること。（学舎、教室については、午後六時以降とする）休日については、午前八時から午後五時までの時間内での入館に限ること。
八、学内立入が認められている時間内であっても本学教職員、学生、及び特に立入を許可された者以外の者が学内に立入ること。

学内における禁止事項

学内における禁止事項は、これまでも、しばしば明らかにしてきたように、本学においても四十六年十二月四日実施には、当時の学生諸君の中心代表、自主管理の原則は、しばしばグループと、他大学から来られて学内に立入ることを禁じます。

学生会館の使用については、これまでも、しばしば明らかにしてきたように「誠之館規程」および「誠之館使用についての暫定申し合せ」があります。これは大学と学生代表との間で相互長期間の良主的な協議を経えたうえで成立したものであり、大学が数年来の苦慮に苦労した経験のなかでもまり通してきたものは、この理由に基づくものであります。したがって、大学としては学生諸君の十分な活用の面からみても、また公的な意味からも、自主管理の原則は尊重されるべきであります。

上記の「申し合せ」の中で、
一、学内外を問わず暴力行為を行なうこと。
二、凶器（例えば角材、鉄パイプなど）、爆弾、ヘルメットなど武器携帯または、使用して、学内に立入ること。
三、学舎研究室その他施設などを破壊、占拠、封鎖すること。
四、威力を用いて退行、黙認及び面会など強要すること。
五、教室へ押しかけて、または手毛、集会、放送、シュプレヒコールなどの騒音により授業及び大学の正常な業務を妨害すること。及び学舎、建物でさ手を行なうこと。
六、立入禁止区域に立入ること。
七、当分の間、平日午後八時から翌朝八時まで（夜間閉鎖）、学内に立入ること。（学舎、教室については、午後六時以降とする）休日については、午前八時から午後五時までの時間内での入館に限ること。
八、学内立入が認められている時間内であっても本学教職員、学生、及び特に立入を許可された者以外の者が学内に立入ること。

なお危険予測　学生の自主管理受入れられぬ

昭和四十八年九月五日
学生部長

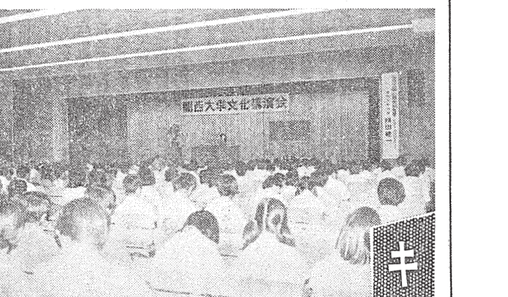
網干教授らが講演

名古屋・松山・高松で文化講演会

高松塚古墳などについて

関西大学主催の文化講演会＝写真＝が、七月中旬と八月中旬の三回にわたって、名古屋、松山、高松で開催され、盛会のうちに終了した。

この講演会は一昨年開催された公開問題学術講演会と同様、市の開放された大学と地方社会との連絡を深めるとともに、関西大学の文学部教授が講演されたものである。



講演題目と講師
「日本の古墳文化」―壁画古墳
高松塚を中心として―
文学部教授　樋口隆康

「人生と生き方」
社会学部教授　広田君美

場所　CBCホール（名古屋市栄二）
月時　七月二十一日（土）
講演題目と講師
「日本の古墳文化」―壁画古墳
高松塚を中心として―
文学部教授　樋口隆康

「人生と生き方」
社会学部教授　広田君美

場所　愛媛県医師会会館（松山市）
月時　七月二十二日（土）
講演題目と講師
前同と同じ

日時　八月二十五日（土）
場所　四国ハイツ社七階大ホール
講演題目と講師
「日本の古墳文化」―壁画古墳
高松塚を中心として―
文学部教授　樋口隆康

「人生と生き方」
社会学部教授　広田君美

昨年に引続き好評

48年度　吹田市民大学教養講座

関西大学と吹田市との交流をはかる第二回吹田市民大学教養講座は、さる九月三日から吹田市内二カ所の会場で開催されている＝写真上＝同講座の両講師が、きわめて好評で、希望者が定員をオーバーするような状態であったため、今回はカリキュラムを減らして、定員を二倍にふやした。しかし、それでも受付開始の二時間後には定員に達するほどで、市民の関心と期待の大きさが示された。

なおAコースは昨年、千里ライオンビルで、九月三日から一二月日まで十一回、B二コースは吹田市民会館で九月三日から十二月七日まで十四回にわたって開かれる。

講師は、当本学部教授、梅原猛、吹田市教育委員会教育長、他の研究機関の学者、研究者などが、「日本文化の特質」、「日本の古代文化」、「日本の中世文化」、「日本の近世文化」、「日本の近代文化」、「日本の現代文化」、「日本の文化と宗教」、「日本の文化と芸能」、「日本の文化と民族」、「日本の文化と自然」、「日本の文化と教育」、「日本の文化と国際」、「日本の文化と人間」、「日本の文化と未来」の題目で、講演される。

関西大学と吹田市との交流は、昭和四十六年度の大学教養講座に始まり、その後も毎年、市民大学教養講座を開催してきた。今年度は、「日本の文化」と題して、十回にわたって講演されたが、今年度は、「日本の文化と人間

旅特集

旅の原点

旅とは何か

——柴田　実

この夏は新聞やテレビが一斉に「旅民大移動」などと評した客に囲まれていられなくした大ように、例年見られる盆の帰省ラッシュが、とくに多くて列車や航空機がひしめき合ったほか、マイカーによる高速道路の渋滞も甚だしかったらしい。一億の人口のだれもがあるが一度に旅に出て、それも近畿的近畿圏のリゾートのみでなく、北海道や沖縄はいうまでもなく、ヨーロッパ迄で幾百という団体が出かけたというのであるから、マスコミの格好の話題となったのもいわれもっともであった。

それにしてもどうしてこんなに大勢の人が旅に出るようになったのか——みなりの窓口の前に長い行列を作って順番を待っていた有様などを見ると、れしもがあわてふためき、旅行業者が「旅へ旅へ」と人々を誘っても甚だしい。他にしたい観光地、都会なみのホテルヘディスイスの地元アトラクション、新設なったスカイライン、記念写真の数々……。こういった「旅行」は、ブーアスティンが「偽似イベント」の旅行として既によく指摘したところである（「幻影の時代」創元新社）。自ら積極的に現地の人と出会いを求めるでもなく、現地の風物を自ら直接的に体験するということもなく、心の底に根づくような「認識」はなく、ただ「確認」だけがあるばかりの固陋な体験として、ないしは既成のイメージの補足満足し、まさに「観光」として記念写真がかりをとっただけの「旅行」が一般化している。

こうような「与えられた旅」の風潮に対しては、そんな旅行はほんとうの旅行ではない、道徳論もとの旅行ではないとか、レジャーの間違った使い方であるとか、批判がつきないが、非難ばかりしてすませしまいか。

「聖なるもの」へ修練の道

帰る所やはり〝家〟

この夏の「旅」は、「聖なるもの」へ修練の道であったかもしれない。

それだから、かの「奥の細道」を書いた芭蕉の旅のごとく「旅はまさに人生」であるといえば、それまでのことであるが、「現代旅は苦」などと言ってしまったのかよ。

昭和のはじめ、私が学校生活をしていたころは、恐慌の中にあって、「旅に出よ」などとしきりにけしかけて地方の山村を訪ねまわっていたころは、私は「旅行者はその一生涯、一度は必ず一人で旅に出て、一人の人間のだれもがあるべき姿を見つめなければならない。一度は海を見たことがない、という悲に陥ったものであった。その頃、恐慌の中にあって、「旅に出よ」というのであるが、当時旅行人々は物質は貧乏で、旅行者は、一泊以上の旅行者は昭和四十六年には延べ八千三百万人と推計されており、約一・三人に一人が観光旅行をしたことになる。国鉄の発表によると、今夏七月二十一日から一カ月の間に、全国で特急、急行列車を利用したのは片道で四千十九万人、収入は千三億円と昨年を大幅に上回ったという。こうした資料を見ていると、人びとは何を求めて旅に行くのだろうか。人びとを旅に駆りたてるものは何だろうか。日本人の旅の原点はどんなところに求められるのだろうか、という疑問がわいてくる。諸先生方のご寄稿と学生諸君の

税現地紹介などをおり込んだこの特集記事

マスツーリズムという言葉もあるように、旅行はすっかり私たちの生活に定着してしまった。

総理府の「全国旅行動態調査」によると

一泊以上の観光旅行者は昭和四十六年には延べ八千三百万人と推計されており、約一・三人に一人が観光旅行をしたことになる。国鉄の発表によると、今夏七月二十一日から一カ月の間に、全国で特急、急行列車を利用したのは片道で四千十九万人、収入は千三億円と昨年を大幅に上回ったという。こうした資料を見ていると、人びとは何を求めて旅に行くのだろうか。人びとを旅に駆りたてるものは何だろうか。日本人の旅の原点はどんなところに求められるのだろうか、という疑問がわいてくる。諸先生方のご寄稿と学生諸君の

税現地紹介などをおり込んだこの特集記事

詳しい論議は略しこれを一口にいえばひたすら「旅」を求め、それと合一せんがために、自分の殻を破って旅をしようとする修練ではないかと思い当る。

ところで、国語の「たび」と「旅」は、「たび（給）」に子の家（四）とあるように、旅は明日家と対比において意識されており、いとしいものも、恋し、懐郷をそこに置いて旅へ、されば「旅」とは、「たび」と呼び慣れるも（四四〇）とか、「神（すく）もなく旅」とか、「旅（すく）もなく旅」とか、「旅（すく）」と呼び慣れるも（三七六三）などと、「たび」であるといえば、それは、「旅人」は、「旅」は、「旅」は、「旅

夏休み特集

雨にたたられた飛騨高山の合宿

心理学教育学研究部　浅田　良純

わが心理学教育学研究部は、現在女子十二名を含め四十五名の部員を有し、心理学の研究を中心とする心理パートと、教育学の研究を中心とする教育パートがあり、両パートともそれぞれのパートチープを中心に独自の研究方針に基づき、研究活動をすすめている。

今年度は八月二十三日から二十七日迄、四泊五日にわたり、飛騨高山（岐阜県）で夏期合宿を行なった。喫茶ながら四日間を通じて、雨にたたられ、屋外を予定していた行事は全て中止になったが、そして最年、春と冬には、それまでの研究の総括を行なうことを中心として、一方では施設生活をすることによって部員相互の親睦をはかる意味において、非常に重要の集い、体験。朝食を八時にすませ、九時から十二時迄午前の講義。

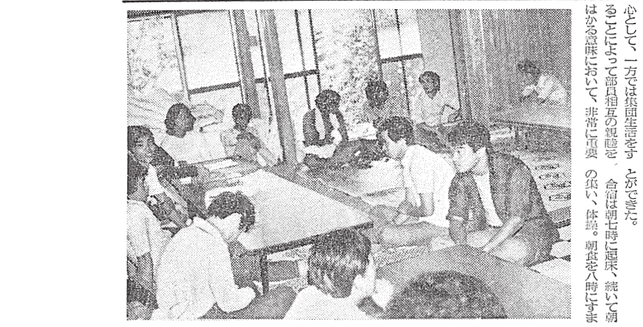
講義は、心バ、教育において、まじめに研究討論、集会など。そして二十二時に消灯という予定であった。

懇談は、夜バ、教育にわかれて、まじめに研究討論、集会など。

夜の集会では、学術問題を中心にグループ毎に楽しおよび広く話し合いがもたれ、やや盛況はしてしまったようではあるが、それはそれで、意義があったと考えている。そして二十六日夜に行なった打ちあげコンパでは、一、二年次生が寸劇をやったり、続いて歌、踊りなどを演じ楽しく過ごすなど、これ迄のコンパとは少し趣きの異なったものになった。

今回の合宿は上記のようなものでしたが今秋十一月上旬に、合宿の成果を公表し、全学生を対象に展示会、研究発表会、講演会、それにCMMPによる心理診断所テストなどを行なう心理・教育部を開催する予定である。できるだけ多くの人に来ていただけるようお願いしたい。

（文学部三年次生）



到着早々に"夜襲"、多彩な合同練習

全日程を完全に消化

二部応援団　後藤　明

わが関大二部応援団は、恒例の夏期合宿兼演奏旅行を、去る七月十日夕から十九日迄の六日間、丹後半島木津温泉近くの網野浜温泉にて行なった。以下は、われわれ第二十九代幹部の指揮の下に行われた昭和四十八年度の夏の合宿の概略。二部部としての総評である。

七月十四日（土）夕方、大阪駅時すぎの急行で発つ。総勢二十名。現役は、リーダー部十二人、吹奏楽部十五人（うち女子二人）の総計二十七人、OBは、今回の合宿に参加した吹奏楽部の女子の先輩二人で賑い。と思い巡らせ、われわれが網野海岸の宿舎「海風荘」に到着したら、監督、コーチといったOBの"偉いさん"や学生課の方たちは、既に温泉に浸かっておられてびっくり。午後七時を過ぎての夜は、食事をすませるとバス旅。ところが、駅に着いたら、監督、コーチが駆け足で、「ウインチ準備！」と怒鳴り、ウインチ操作の練習。

翌十五日（日）朝のロードワークで練習の幕があいた。二十分位の海岸を、リーダー部は発声練習、吹奏楽部は楽器を持ち出し、賑やかに、ときの声をあげ、海岸を一周する。朝食後、吹奏楽部は近くの海水浴場へ行き、食事の「利腕」をした。午前は、楽器の調整をしたり、雑談をしたり、海水浴をしたり、午後は、「ウインチ操作」の練習。夜は、「ウインチ操作」の練習。

宿舎の前の海水浴場へ行き、海に入ったり、砂浜でのバレーボールをしたり、夜は、「ウインチ操作」の練習。

合宿期間中、練習として主演奏曲は、「ウィンチ操作」の練習。

会場として、この小さな体育館は、地平線に姿を現わし、全ての部員が、練習後、冷水浴びをし、冷たい海の水に、ドボンと飛び込んだ。

翌十六日（月）朝のロードワークは、「ウインチ操作」の練習。

翌十七日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌十八日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌十九日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌二十日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌二十一日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌二十二日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌二十三日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌二十四日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌二十五日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌二十六日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌二十七日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌二十八日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌二十九日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌三十日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌三十一日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌三十二日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌三十三日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌三十四日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌三十五日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌三十六日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌三十七日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌三十八日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌三十九日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌四十日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌四十一日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌四十二日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌四十三日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌四十四日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌四十五日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌四十六日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌四十七日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌四十八日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌四十九日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌五十日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌五十一日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌五十二日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌五十三日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌五十四日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌五十五日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌五十六日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌五十七日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌五十八日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌五十九日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌六十日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌六十一日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌六十二日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌六十三日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌六十四日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌六十五日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌六十六日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌六十七日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌六十八日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌六十九日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌七十日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌七十一日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌七十二日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌七十三日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌七十四日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌七十五日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌七十六日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌七十七日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌七十八日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌七十九日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌八十日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌八十一日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌八十二日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌八十三日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌八十四日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌八十五日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌八十六日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌八十七日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌八十八日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌八十九日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌九十日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌九十一日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌九十二日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌九十三日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌九十四日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌九十五日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌九十六日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌九十七日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌九十八日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌九十九日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌百日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌百一日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌百二日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌百三日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌百四日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌百五日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌百六日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌百七日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌百八日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌百九日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌百十日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌百十一日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌百十二日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌百十三日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌百十四日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌百十五日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌百十六日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌百十七日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌百十八日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌百十九日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌百二十日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌百二十一日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌百二十二日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌百二十三日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌百二十四日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌百二十五日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌百二十六日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌百二十七日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌百二十八日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌百二十九日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌百三十日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌百三十一日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌百三十二日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌百三十三日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌百三十四日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌百三十五日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌百三十六日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌百三十七日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌百三十八日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌百三十九日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌百四十日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌百四十一日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌百四十二日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌百四十三日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌百四十四日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌百四十五日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌百四十六日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌百四十七日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌百四十八日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌百四十九日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌百五十日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌百五十一日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌百五十二日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌百五十三日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌百五十四日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌百五十五日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌百五十六日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌百五十七日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌百五十八日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌百五十九日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌百六十日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌百六十一日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌百六十二日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌百六十三日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌百六十四日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌百六十五日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌百六十六日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌百六十七日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌百六十八日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌百六十九日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌百七十日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌百七十一日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌百七十二日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌百七十三日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌百七十四日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌百七十五日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌百七十六日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌百七十七日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌百七十八日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌百七十九日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌百八十日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌百八十一日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌百八十二日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌百八十三日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌百八十四日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌百八十五日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌百八十六日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌百八十七日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌百八十八日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌百八十九日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌百九十日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌百九十一日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌百九十二日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌百九十三日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌百九十四日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌百九十五日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌百九十六日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌百九十七日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌百九十八日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌百九十九日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百一日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百二日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百三日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百四日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百五日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百六日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百七日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百八日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百九日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百十日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百十一日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百十二日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百十三日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百十四日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百十五日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百十六日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百十七日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百十八日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百十九日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百二十日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百二十一日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百二十二日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百二十三日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百二十四日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百二十五日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百二十六日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百二十七日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百二十八日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百二十九日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百三十日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百三十一日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百三十二日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百三十三日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百三十四日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百三十五日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百三十六日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百三十七日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百三十八日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百三十九日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百四十日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百四十一日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百四十二日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百四十三日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百四十四日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百四十五日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百四十六日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百四十七日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百四十八日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百四十九日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百五十日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百五十一日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百五十二日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百五十三日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百五十四日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百五十五日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百五十六日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百五十七日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百五十八日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百五十九日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百六十日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百六十一日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百六十二日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百六十三日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百六十四日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百六十五日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百六十六日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百六十七日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百六十八日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百六十九日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百七十日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百七十一日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百七十二日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百七十三日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百七十四日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百七十五日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百七十六日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百七十七日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百七十八日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百七十九日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百八十日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百八十一日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百八十二日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百八十三日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百八十四日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百八十五日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百八十六日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百八十七日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百八十八日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百八十九日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百九十日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百九十一日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百九十二日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百九十三日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百九十四日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百九十五日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百九十六日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百九十七日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百九十八日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌二百九十九日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百一日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百二日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百三日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百四日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百五日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百六日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百七日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百八日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百九日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百十日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百十一日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百十二日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百十三日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百十四日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百十五日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百十六日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百十七日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百十八日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百十九日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百二十日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百二十一日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百二十二日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百二十三日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百二十四日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百二十五日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百二十六日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百二十七日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百二十八日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百二十九日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百三十日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百三十一日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百三十二日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百三十三日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百三十四日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百三十五日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百三十六日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百三十七日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百三十八日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百三十九日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百四十日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百四十一日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百四十二日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百四十三日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百四十四日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百四十五日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百四十六日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百四十七日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百四十八日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百四十九日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百五十日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百五十一日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百五十二日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百五十三日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百五十四日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百五十五日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百五十六日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百五十七日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百五十八日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百五十九日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百六十日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百六十一日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百六十二日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百六十三日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百六十四日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百六十五日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百六十六日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百六十七日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百六十八日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百六十九日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百七十日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百七十一日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百七十二日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百七十三日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百七十四日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百七十五日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百七十六日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百七十七日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百七十八日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百七十九日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百八十日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百八十一日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百八十二日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百八十三日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百八十四日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百八十五日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百八十六日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百八十七日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百八十八日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百八十九日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百九十日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百九十一日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百九十二日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百九十三日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百九十四日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百九十五日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百九十六日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百九十七日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百九十八日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌三百九十九日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百一日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百二日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百三日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百四日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百五日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百六日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百七日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百八日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百九日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百十日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百十一日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百十二日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百十三日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百十四日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百十五日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百十六日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百十七日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百十八日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百十九日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百二十日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百二十一日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百二十二日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百二十三日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百二十四日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百二十五日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百二十六日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百二十七日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百二十八日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百二十九日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百三十日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百三十一日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百三十二日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百三十三日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百三十四日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百三十五日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百三十六日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百三十七日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百三十八日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百三十九日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百四十日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百四十一日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百四十二日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百四十三日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百四十四日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百四十五日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百四十六日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百四十七日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百四十八日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百四十九日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百五十日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百五十一日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百五十二日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百五十三日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百五十四日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百五十五日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百五十六日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百五十七日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百五十八日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百五十九日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百六十日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百六十一日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百六十二日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百六十三日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百六十四日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百六十五日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百六十六日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百六十七日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百六十八日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百六十九日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百七十日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百七十一日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百七十二日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百七十三日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百七十四日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百七十五日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百七十六日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百七十七日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百七十八日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百七十九日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百八十日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百八十一日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百八十二日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百八十三日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百八十四日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百八十五日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百八十六日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百八十七日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百八十八日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百八十九日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百九十日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百九十一日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百九十二日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百九十三日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百九十四日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百九十五日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百九十六日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百九十七日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百九十八日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌四百九十九日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百一日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百二日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百三日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百四日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百五日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百六日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百七日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百八日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百九日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百十日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百十一日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百十二日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百十三日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百十四日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百十五日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百十六日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百十七日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百十八日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百十九日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百二十日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百二十一日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百二十二日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百二十三日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百二十四日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百二十五日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百二十六日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百二十七日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百二十八日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百二十九日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百三十日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百三十一日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百三十二日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百三十三日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百三十四日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百三十五日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百三十六日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百三十七日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百三十八日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百三十九日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百四十日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百四十一日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百四十二日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百四十三日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百四十四日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百四十五日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百四十六日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百四十七日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百四十八日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百四十九日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百五十日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百五十一日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百五十二日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百五十三日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百五十四日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百五十五日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百五十六日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百五十七日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百五十八日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百五十九日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百六十日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百六十一日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百六十二日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百六十三日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百六十四日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百六十五日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百六十六日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百六十七日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百六十八日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百六十九日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百七十日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百七十一日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百七十二日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百七十三日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百七十四日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百七十五日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百七十六日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百七十七日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百七十八日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百七十九日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百八十日（金）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百八十一日（土）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百八十二日（日）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百八十三日（月）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百八十四日（火）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百八十五日（水）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百八十六日（木）、「ウインチ操作」の練習。

翌五百八十七日（金）、「ウインチ操作

三冊の本

福永有利

ここに掲げた著作はいずれも、私が最近たまたま読んだ本で、とくに印象深かったものである。専門分野以外の本については、もとより系統だてて読書しているわけではないので、その内容・体裁・書かれた時期などはまちまちである。しかしそれにもかかわらず、現代社会がかかえている重要問題を考える場合、大いに参考となる内容を含んでいる点では、なにがしかの共通性を有している。

今国会における強行採決などを引き合いに出すまでもなく、現代、議会制民主主義にもとずく政治機構が理想的に機能していないことは明らかであり、われわれが改めて議会制度の存在理由を問い直すならば、カール・シュミット著『現代議会主義の精神史的地位』（初版一九二二年、第二版一九二六年）（稲葉素之訳　みすず書房　一九七二年）は必読の文献であろう。シュミットによれば、議会主義の原理は討論と公開にあり、討論は、場合によっては相手方に説得されるという心構をもつこと換言すれば利害からの超越が可能であることを前提としており、自由主義思想にもとづくものである。これに対し民主主義の本質は、平等なものが平等に取扱われ、平等でないものが平等に取扱われないという点にあり、民主主義と議会主義はその本質を異にする。すべての人間を人間として平等に取扱おうとする、近代の大衆民主主義は、統治者と被治者の同一性を実現しようとするものであり、そこでは人民の意思のみが統治の唯一の基準たるべきであるから、なんらかの形式で人民の意思が確認できればよく、危急存亡の時にあっては、議会制度のごときは、人民の意思の前には何ら独立の存在理由をもたないと論じ、その結果、ナチスの独裁政治に理論的根拠を提供することになった。もとより彼の分析には批判さるべき点も多いが、議会制度の維持をはかろうとする者は、まずこのシュミット理論を克服しなければならないと思われる。

つぎに、高度に発展した国であり、ワイマール憲法というすぐれた憲法をもっていた第一次大戦後のドイツにおいて、何故ナチスのような、独裁体制が成立したかを解明しようとしたものとして、ウイリアム・シエリダン・アレン著『ナチスの権力奪取――一九三〇年から三五年にいたるドイツのある小都市の体験――』（一九六五年）（西義之訳　番町書房　一九六八年。ただし訳書名は『ヒトラーが町にやってきた』となっている）がおもしろい。プロイセン州の小さな町、タールブルク（仮名。実際はノルトハイム）の市民達が、どのようにしてナチスの革命に捲き込まれていったかを、当時の新聞・雑誌・パンフレット・多くの人々に対するインタビューを資料として明らかにしたものである。著者の学位論文ということであるが、形式はノンフイクションないしルポ形式ともいうべきもので、小説を読むような気易さで読めるが、そこに書かれてある内容には、戦慄させられるものがある。当初、社民党員や共産党員はナチスに対してかなりよく闘っていたが、それにもかかわらず繰返されるナチスの宣伝と暴力に、市民はいつしかそれになれてしまい、政治的意見の相異を腕力で決することを期待するまでになる。やがてヒトラーが権力の座につき、より一層の組織的な暴力とテロが、ナチスへの反抗の余地を完全に奪ったばかりではなく、さらに迎合的態度をとるものすら現われだす過程が、実にリアルに描かれている。今日のような大衆社会においては、革命は一挙に瞬時になされるものではなく、ナチスの革命が「分割払いの革命」と呼ばれるように、全体主義は忍足で除々に近づいてくる。このような全体主義をわれわれはどうして知覚しうるか、そして知覚できたとしてそれをどうやって阻止できるかが問題となろう。西義之著『ヒットラーがそこへやってきた』文芸春秋社　一九七二年、脇圭平『知識人と政治』岩波新書　一九七三年などもこの問題についての参考となろう。

議会制度研究に必読
『現代議会主義の精神史的地位』

独裁制の解明へ
『ナチスの権力奪取――』

若者の思想・行動の理
『死にがいの喪失』

井上俊『死にがいの喪失』（筑摩書房　一九七三年。）この本は著者がいろいろの機会に書いた文章を一冊にまとめたもので、現代社会学の知識を駆使して、若者文化や大衆文化について光鮮やかな照明があてられている。ことに今日の若者達の思想と行動をいかに理解すべきかを教えてくれる好著である。たとえば今日の若者がイージー・ゴーイングだといわれる点についてもイージー・ゴーイングなタイプは、それがネガティブな形をとってあらわれると、「なりゆきまかせ」の態度となるが、「おのれも生きよ、他も生かせ」という態度としてあらわれることもあり、それは、一方で世俗的な欲望から相対的に自由であるとともに、他方、状況をこえた論理的一貫性に強迫的に固執する硬直した「まじめ」主義からも自由であり、この態度の本質は、「やさしさ」の表現とみるべきで、積極的に評価できる面のあることを説いている。若者の行動を理解できないで悩んでいる大人や、自分の行動の意味を十分に理解していない学生諸君に一読をすすめたい。

（法学部教授）

随想
――諸国噺――

木村滋

＝チューリッヒ　あの丘この小路＝

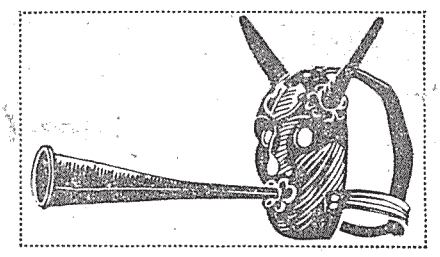
レーニンとチューリッヒ

リマト河がチューリッヒ湖に流れ込むところの美しい都市、それは一五二〇年代にツヴィングリが宗教改革を押し進めた街チューリッヒである。いまでこそ国際金融の中心地であるこの市にも、古い面影を残したあの丘この小路がある。

私はみどり深いリンデンホーフの丘を対岸に見るニーダードルフから市立図書館に通ずるあちこちの古い家並と石畳のガッセ（小路）を好んで散策したものである。ロシア革命直前にレーニンがこの市のどんな家に仮寓していたのか知る人は少ない。市立図書館から南へ二筋目のノイマルクトからニーダードルフに通ずるガッセ小さな泉水の前の古ぼけたレストランの壁を見あげると「ロシア革命の指導者レーニン　一九一六年二月二十一日より一九一七年四月二日までここに住む」と刻まれた記念の金属板を見いだす。レーニンはここから図書館に通い、またここからロシア革命に馳せ参じたのだ。

リンデンホーフの丘

これは勇敢なチューリッヒのウーマン・リブの話である。一二九二年オーストリーのアルブレヒト大公は軍を率いてこの街に迫り、チューリッヒ・ベルクに陣をはらせた。街の男たちは少し前のヴィンタートゥーアの戦いでほとんど戦死し、市は危難にさらされていた。このとき婦人たちは敢然と甲冑を身にまとい、鎧や楯を持ち、リンデンホーフの丘に向け喊声の音も勇ましく隊列を整え行進した。女指揮者はヘッドヴィック。彼女らは罵の声をあげ武器をかざした。アルブレヒト大公はこれを遥かかみて多くの精兵健在なりと感違いしてそそうに軍をヴインタートゥーアに引き揚げた。チューリッヒを救ったのは勇敢な婦人や娘たちであった。



〈ハルスアイゼン〉ガッセ

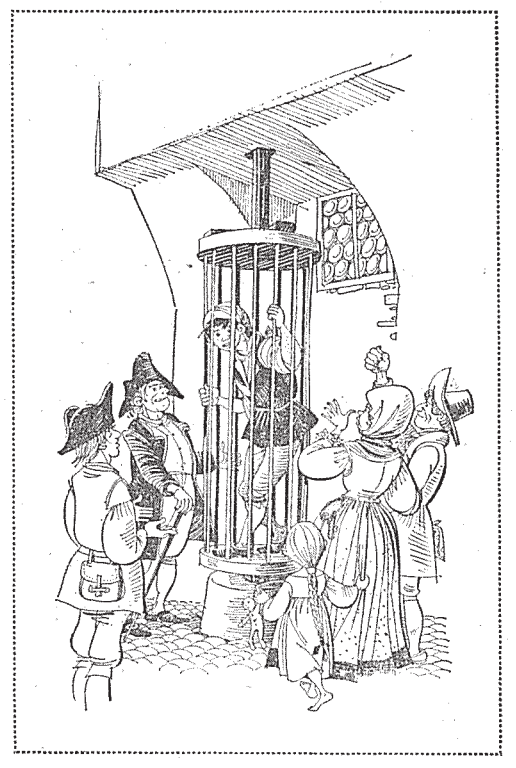
これはまた中世的暗黒と虐げられた庶民の哀感の話である。

チューリッヒ大学と工科大学の間とその南の道はいまではキュンストラーガッセと呼ばれているがかつては〈ハルスアイゼン〉と呼ばれたところである。

昔の刑罰は残酷であった。火焙、斬殺、車裂き、縛り首、四つ裂き、さし絵にあるような面をかぶせられ水を飲まされる溺死、生き埋めなど残虐そのものである。

子供達に対してもきびしかった。夕暮の教会の鐘が鳴った後でも路上で遊んでいたり、教会の庭で石を投げたり、神を冒涜したりすると、〈ゲッテリ〉と呼ぶ四方壁で格子の屋根が嵌め込まれた中に閉じ込められた。

チューリッヒの通りには昔は乞食が群がっていた。ただたんに「乞食から泥棒への道はほんの僅か」という理由だけできびしく取り締まられた。彼らは救貧院で妻がゆを施された。自分の子供を乞食に育てあげるという貧しく悲しい母親がいたことである。夕暮の教会の鐘が鳴った後もこうした子供の乞食が路上に居ると、市の番人は救貧院に連れて行き、院長はその子の親の名前を尋ねた。こうしたことが度重なると、子供は職人の許へ徒弟奉公にやられ、母親が罰せられたのである。さし絵にあるヘトリュレ〉（罪人をさらす回転檻）に母親を押し込めた。道行く人々はそれについた柄で中の母親が気分が悪くなってしまうほど回転させた。泥棒はさらしものにされ、鞭で打たれ烙印を押されたうえ放逐された。さらし台には、手足を縛りつける柱と鉄の首枷の二種類があった。首枷の方は内側にいくつも鋭いトンガリがついていたので罪人は身動き一つできなかった。人びとは驚きの目をみはり若者は罵声を浴びせた。この首枷はいまの大学の辺りキュンストラーガッセの壁にとりつけられていた。このガッセはその鉄の輪が取り去られた後も永い間ヘハルスアイゼン〉と呼ばれていた。（さし絵のこの二つの話はZurich in Sage und Geschichteより）。秋の夕暮れ古い石畳のあの街この小路を散策しているとあの古本屋からひょっこりレーニンが現われたり悪童どもや魚市場に集う人びとの暗躍、リンデンホーフの丘からの勇敢な婦人たちの鬨の声を耳にするような錯覚におそわれる。フト気づくとヘアルトチューリッヒ〉というバーの前であった。扉を押すと太っちょのマダムがいつものように〝プロフェサーごきげんいかが〟とあいそよく手をさしのべた。（商学部教授）



世界の大学と学生生活

清水寛治
＝写真は筆者＝

ロンドンの北西一八〇キロ、英国第二の人口を持つバーミンガム市は、訪れる人に工業都市とは思えないのどかさを感じさせる。バーミンガム交響楽団の演奏が行なわれるタウンホール、美しい市庁舎、美術館や博物館等の建ち並ぶ都心部から四キロの地点にバーミンガム大学のメインキャンパスがある。

バーミンガム大学の創立は一九〇〇年であるが、その前身は外科医ウィリアム・サンド・コックスにより一八二五年に開かれた医学校に求めることが出来る。さらに一八四一年には付属病院としてクィンズホスピタルが建てられ、二年後には、土木、建築、神学および法律の各学科が増設され、クィンズカレッジとなった。一方発展する工業都市としての要望から、サー・ヨシヤ・マッソンが一八八〇年、理学部と文芸学部からなるマッソンカレッジを設立した。クィンズカレッジは一八九二年、マッソンカレッジに併合され、一九〇〇年にジョセフ・チェンバレンによって、英国の市民大学の原型となるバーミンガム大学へと発展したのである。現在は一二五エーカーのメインキャンパスに理工学系各学科、医学部および付属病院（歯学部は都心部にある）、土木・建築学部、法学部、社会学部、経済学部、文芸学部、教育学部等の個性的な建物が配置されている。学生数七七〇〇、教育職員一〇〇〇、教授一三三で本部はタワーを半月型に囲むレンガ建ての建物である。この中にコンピュータセンター、郵便局等も含まれている。この向いには、図書館があり、この内にゴーギャンやレンブラントなどの絵画や多くの彫刻が展示されている美術室やコンサートホールなどがある。

バーミンガム大学の素顔
工都に似合わず整然

学生会館にはパブ（ビヤホール）、ダンスホール、ビリヤードの部屋等があり、それらに囲まれた中庭の噴水には、この大学のシンボルマークの一部をなしているマーメイドの像が立っている。掲示板には、学生同志の中古車の売買の広告や旅行の相棒を探すビラが一面に張られており、ここの売店で学部ごとに異なる柄のネクタイが売られていた。職員会館の一階はパブになっていて、ロビーでは広重の浮世絵の展示をやったりしている。二階は軽食堂と食後のコーヒーを楽しむ談話室で、雑誌が備えつけられていた。三階も食堂で日変わりの色取々のメニューを楽しむことができる。またここでは職員の親睦のため、コンサート、ダンスパーティ、ディナーパーティ等が催される。親睦といえば一日六回位お茶を飲む英国のこと、午前、午後のティタイムには、教員は各科の教員集会室でお茶とコーヒーを楽しんでいる。

英国人の忍耐強い国民性はいろんな面で見られるが、犬のしつけにもそれが表われていると変な所で感心したのである。道で他所の犬とすれ違ってもお互いにちらっと見るだけで「キャン」とも「ウー」ともいわずに別れていく。英国人は犬好きで、犬の数もかなり多いが、一年の英国滞在の間、犬の吠えるのを聞いたのは夜中に一度位のものである。主人が劇場に入っている間、車の中で黙ってじっと待っている犬を見ると、私などより余程できているなと感心したものである。こんな犬を見慣れていると、他人を見れば吠えるか噛むのが犬の仕事とでも思っているような、どこかの犬を見るとつい飼主まで比較したくなってしまう。つい犬の話に力が入ったが、英国人が「日本人は犬を虐待している」と、英国人らしからぬおせっかいをいったのも無理からぬことであろう。英国紳士は一見取り付きにくいとよくいわれるが、それは一つには習慣が異なるのと、個人主義に対する考え方の相違によるのではなかろうか、というのが私の結論である。

（工学部助教授）

▶編集後記◀

新学長に法学部の明石三郎教授が選出された。難問が山積している現在、新学長にはまことにご苦労さまではあるが、大学の発展に寄与されるよう祈ります。